

五分館だより

第32号

豊丘村公民館
第五分館
編集 社会部
印刷 龍共印刷(株)

堀越の今日

H10.12.1現在
戸数 93戸
人口 388人

平成10年11月7・8日

堀越祭り盛大に開催



わかば会

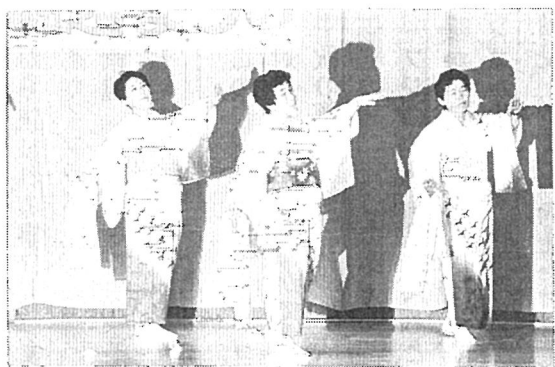
テープのスイッチが入る幕が開き始める。扇を持つ手がジットリと汗ばむ。

二年間の稽古の結果を発表する大切な舞台なのに、前回の発表会の後、二年後は自信を持って舞台上に立ちたいと思っただけなのに、稽古不足と、生来の内向的な性格故に、心臓の音が早鐘のように鳴りひびく。

何の活動もそうだけれど目的が有ると無いのでは、それに向かう姿勢がちがう。唯一の発表の場である堀越祭に出場するために、二年間稽古を積む。前回の発表会よりも、少しでも上達し

励もうと思う。

私達なりの満足感の中で二年後の発表会に向けて、反省をも含めてまた稽古に



ているように練習する。

年々物覚えは悪くなるし手足はこわくなるし、それでも二年掛けて何とか舞台に立てるまでにする。

図々しさの代名詞のように言われるオバタリアンと呼ばれる年齢になって久しい私達が、二年に一度、ドキドキする新鮮さと、緊張感を体験するのも悪くないかな、と思う。

大きく息を吸いフーッと吐く。曲に合わせて踊りはじめる。三分数十秒の緊張感の中で、二年間の集大成として踊り切る。

手芸クラブ

西元美津代

堀越祭りについてと突然言われても、何んとなく参加していただけに困ってしまいました。が、思ふ事を一言。特に踊り・詩吟など折角習っているのだから、発表出来る場があると云う事はそれなりに力入れようも違ふでしょうし、それにお年寄りから若い人達迄の広い範囲の交流の場にもな

堀越祭りを見て

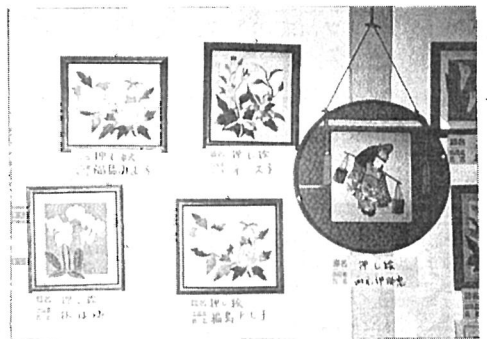
田島かほる

今年も二年に一度の堀越祭、一日目の午後の作品展示を夕方有線放送での呼び掛けを聞いて出かけた。生花、手芸、押花、墨絵など見事な作品が数多く出展され素晴らしいと感じました。又、年輩の方の若かりし頃の写真展示も有り思わず見入ってしまいました。

二日目の演芸、日頃の練習の成果発表舞台狭しの歌と踊り、お酒も入り拍手とおはながとび、どのグループも素晴らしい華やかでした。

二部はプロ歌手舞京子歌謡ショー、テレビとちがった生の声を聞くことが出来た生に圧倒されました。今年も秋が早くいろいろ収穫が重なり忙しかったけれど二日にわたる作品展示

で、とても良い行事の一つだと思えます。さて私達手芸クラブも少人数の会で名ばかりですが、始めて十年ほどになります。みやましい物を作っている訳では無く、展示するのが恥ずかしい様な物ですが、毎回参加させて頂いております。



物をさがし仕上げます。そのつど後にお茶を飲み楽しく過ごす「その方が本音かも」こんな物を作りたいと考えております。

が有り見学することが出来ました。展示品をかたづけるのが早く残念に思いました。演芸にも子供からお年寄りが集まり楽しいひとときが過ぎたと思えます。役員の方々は御苦労があったでしょうが、良い堀越祭だったと思えます。



堀越祭について

米山千恵子

堀越祭が十一月七日八日に盛大に行われました。役員の皆様は準備等で大変御苦労様でした。又、展示品

を出展された方々も皆素晴らしい作品で大変感動しました。二日間にわたり展示がされた為ゆっくり見学できて良かったと思えます。八日には各種グループの発表会や歌謡ショーがあり私も見せて戴きましたが今年は二年前に比べると見学者が少なかった様に思いました。役員の方々は企画作りや運営にと大変だと思えますが、せっかくのイベントを区民が全員で盛り上げて、できれば全員が参加し楽しい時を過ごせたら、幸せに思えます。

私の勝手な思いですが、もう少し早い時間から子供からお年寄りまで気楽に参加できる、カラオケ大会や、古着等のバザーがあれば、夏祭りや運動会の時のように区民多勢でにぎやかに開催できると思えました。

松茸観光

反省点が多かった観光

平成10年度専従委員長

菅 沼 明 人

区民皆様の御協力により、平成十年度の松茸観光は九月二十日オープン、十月二十七日まで営業でき、厚く御礼申し上げます。

今年で二十六周年を迎え、昨年より運営形態を大きく変え、炊事、接待、配膳などは女性による専門化体制の確立と、企画立案運営は専従者があたるシステムで実行されてきましたが、反省と次年度への課題と対応

今年春から気候が進み、果物の生育もいつもの年より早く、リンゴの玉伸びも順調に推移してきた。モモナシは七日から十日程早い収穫で早生種のツガルは十日程早かった。しかし、リンゴにおいては、斑点落葉病、輪紋病、タンソ病等が多く、畑にスコップで穴を

今年のリんごは……

林 利 和

掘り、病害果を埋める作業が大変だった。

また、二つの台風の影響もあり、台風八号は豊丘の果樹に被害があった。台風七号は豊丘の被害は少なかつたものの、松本、長野を中心に百十一億円、松川、高森では十億円と県下に大きな被害を及ぼした。市場で

をふまえ、最初に人的な面から考えてみますと、本年度専従公募は三名の応募しかなく、もう二名くらい必要とのことで何回も協議交渉の結果、立场上副区長として観光審議会の副として観光審議にあたることになっていましたが、観光準備の重要な時期に入り、やむをえず専従を引受け、越野繁男、久保田聖司、武田九衛、林惇、菅沼明人の五名が役割分担しました。

本年の取組みはおくればせながら決意あらたに、昨年の二十五年来最高の好成績を上まわるべく、イメージチェンジと新しい発想、アイデアが必要と考え、内部的には、主任越野、副主任久保田、武田の各氏を選任し、朝礼から其の日の実務を主任副主任が中心に御苦勞願ひ、温泉宿泊客を昼

席へ誘致や、紹介、各種マスコミへの宣伝活動を積極的に展開し、お陰様で来客数は前年を上回る事ができました。

長雨と高温に祟られたキノコ

越 野 繁 男

今年の松茸について書いてくれと依頼を受けた。難しい主題だなあ……と困惑しながら私の感じた松茸の事について少し書きます。

茸類すべてに言える事だと思いますが、茸の原点は菌糸から生まれる事は言うまでもなくプラス日照(温度)と雨量(湿度)等々気象条件に合わせて発生となる訳で

したが、異常気象が原因と思われる、ムシ、カビ、クサリが予想外に大量発生し被害が甚大で決算中間ですが御期待にそえなかった事を深くお詫び申し上げます。今後の対応はどうあるべきかは割愛しますが宜敷く御願ひ申し上げます。

ですが今年の松茸に関しては誰もが、かなり出るのではないか? そんな気象の移り変わりの中、九月十日頃より発生が始まり九月下旬には、相当量の茸が出た訳です。此の時期、長雨と高温に依り茸虫の異常発生等々は観光事業にも多大な悪影響が出た事に対しては誠に残念で

十月十日を中心に茸の発生二回目の山が有りました。平年にくらべ気温が高かったため、茸は長い期間出ましたが村内を見廻して見ると芦部川水系の奥方面が一番茸の発生が悪かったと思ひます。地域差が大きかったと感じました。

松茸観光を持つ堀越区今後も大変だと思ひますが区民全員で智慧を出し協力し合つて、より良い区の発展を願うものです。

SPF豚を経営して

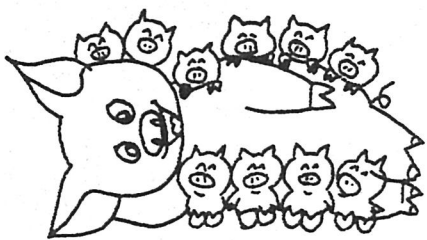
松 下 敏 文

早いもので、SPF豚農場が稼働して一年が経とうとしています。昨年十二月母豚三五〇頭導入、そしてひざのじん帯断絶という痛い思いでのスタートでした。

ところで皆さんはSPF豚肉とはどのような豚肉か御存じでしょうか。基本的には「豚の発育を妨げる特定の病原菌がない」健康に育った豚肉の事で、肉はやわらかく臭み、アクが少なくあっさりしているのが特徴です。その豚肉を生産するSPF豚農場は、設備管理方法に厳しい基準を設け、一年ごとに厳重な更新審査が行われ、これらをすべてクリアした農場のみが『日本SPF豚協会』より認定されます。外から病原菌を持ち込まないようにするため、私達は毎日朝シャワー、朝風呂に入り、場内専用の衣服に着替えて作業をします。場内に入れる大きな物はホルマリンで燻蒸し、弁当、メガネ等の小物は紫外線殺菌灯付のパスボックス内で殺菌してから持ち込みます。又、農場従業員は自宅を猫を飼育してはいけません。防疫上多くの規定があり、外部との接触をさけるという特異な職場です。

農場の状況は、男性三名、女性二名で管理しており、十一月末現在で、母豚三七二頭、雄豚一六頭、肥育豚二、六九六頭、肉豚出荷一、四六四頭となっています。このような大規模な企業的養豚をまさか自分でやるようになるとは思っていませんでしたし、初産の多い半年位は大変で、農場に泊り込みで分娩看護をする事もしばしばでした。最近では少し慣れ、少しは余裕も出て来た所です。

県下の大規模養豚場として注目を集めているだけに、責任重大ですが、技術指標は高く、目標を定め、生産成績でも県下一となれるようがんばりたいと思ひます。尚、堆肥につきましても臭いのない良質な堆肥が出来ておりますので御利用下さい。



後世へ語り継ごう

資料提供の御協力を

「堀越のあゆみ」委員会発足

区長より委嘱された十名の委員は三月に初会合を開き組織構成と今後の取り組み方や編集方針等を検討し七回の委員会を開催してきた。

後世に語り継ぐべく正確な資料と情報を得ながら各分野ごとに取り組むことを確認。

当初、区政全般に渡る資料の整理と春日神社倉庫に眠っている資料の整理点検を行った。中には貴重な古物もあり、その時代時代の社会を映し出した姿は現社会では思いもよらぬ出来ごとでその社会と地域の生きざまが蘇ってくる。

正確さを求めながらただ単に記憶だけで、編集するのではなく資料の裏付けのもとに基本としてすすめる方針であります

委員だけでは到底、掌握は困難でありますので是非共、各御家庭に保存されている資料を御提供いただき、堀越のあゆみの集大成としてたいと考えていますので御協力の程お願い致します。随時回覧でお願いしたい資料の御案内をいたします。現段階での各分野ごとの

テーマは次の通りであり、それ以外の点について御意見いただきたいと思います。

● 第一班

◎久保田芳美、武田良實、松村勝、林惇

堀越の歴史(地名の謂れ、石仏、古道唐松峠等) 区の成り立ち(区政) 組織、区有林、道路、水道、消防団、天神公園、区民会館等

● 第二班

◎武田芳彦、武田務、平晋 教育、文化(分教場の沿革、自彊団、報徳社、史学会、青年団、寿生会、公民館等) 神社(春日神社、高鳥谷神社、三峰神社)

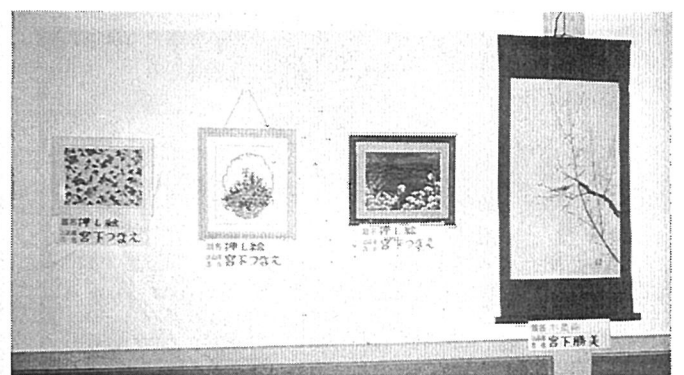
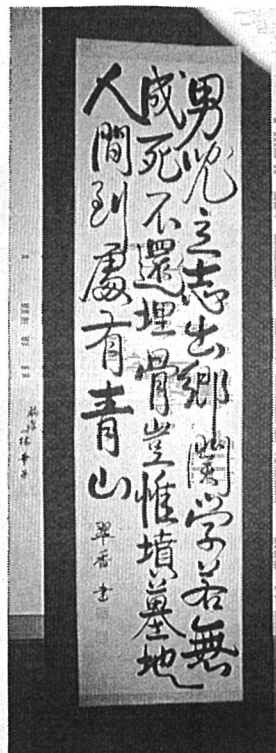
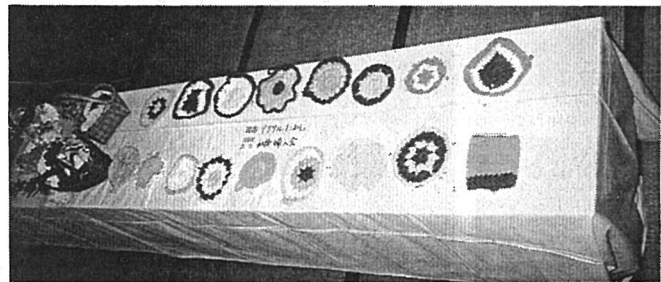
● 第三班

◎武田長年、小椋寛、武田久 産業(産業の推移、農地交換分会、三六災害、南平りんご団地、果樹パイロット事業、小規模団地造成等) 観光(まつたけ観光等)

◎ 印、主任(事務局)

委員構成 委員長 久保田芳美、副委員長 武田良實、庶務 林惇、会計 平晋。

堀越まつりスナップ





奉仕作業にお礼

去る七月に、広域農道の山田から黒谷線の約二キロの間を前多建設(前沢友保社長)による草刈りと支障木の伐材など奉仕作業で行ってくれました。

道も明るくなり、見通しも良くなり、この夏は大変涼しくスッキリとしました。ありがとうございました。



黒谷箋

「師走」この言葉を耳にするのと何となく気忙しくなる。別にこれといった理由はないのだが回りも何となくいつもと違う雰囲気を感じているので、つい自分自身もその気になってしまおう。

そんな中、一年を振り返って見て思うのは、不景気という言葉に始まり、不景気という言葉に終わった事である。新聞紙上を賑わす見出しも不景気の代名詞ばかりが目立ち、何もかもが悪い方向へ進んでいる様な錯覚さえ覚える。

でも、本当にそうなのだろうか。確かに企業の倒産や、強盗、殺人、自殺、詐欺など暗いニュースが多いのも事実ではあるが、何も今年に限った事ではない。毎年同じ様な事件は起きているし、ニュースでも取り上げられてきている。

世の中が本当に不景気になってしまったら、と言う不安が先行して消費が控えられ、投資が見送られ、経費節減だ、人員整理だ、そして倒産だ、となっている。そんな気がするし、そうだと思っっている。

明日は我が身。楽観はしていないが悲観もない。でも、来年は良い年であります様に。(武田伸洋)